
CLANNAD
－クラナド－
オフィシャルコミック 5
原作:KEY
漫画:みさき樹里
CR COMICS

CLANNAD
ークラナドー
オフィシャルコミック 5



原作：KEY
漫画：みさき樹里

CR COMICS

CLANNAD
-クラナド-

オフィシャルコミック 5



Contents





第25回
～親と子～



んじゃ 俺 お先に失礼します
お疲れさまでした
帰るなら途中まで送ってやろうか?
いえ 走って帰るんで大丈夫っす!
あれ? 岡崎くん帰っちゃった?
ええ
…もう2ヶ月か 頑張ってくれてるよね? 彼
ええ 技術はまだまだですが覚えも早い
あいつ ああ見えて俺より頭は回ると思いますよ



——うん
ところで芳野くん ちょっと話が あるんだけど いいかい？
話…？
バタッ
ただいま！ 渚
おかえりなさいです
ごはん できてますけど 先に食べますか？
ああ もう腹ペコで 死にそうだ
渚との同棲生活が 始まつて 2ケ月が過ぎた


おおおおお
いただきます！
おいしいですか？
うまい
特にこの魚の照り焼きとか最高
あ
それは今日の自信作です
えへへ
家事のほとんどは渚がこなす
学校の事だけでも大変だろうに渚はその事だけは頑としてゆずらなかった
今日さ芳野さんに酷い目に遭わされた
どんなですか？
それがさ 不意打ちで芳野さんの事デジカメで激写したら逆鱗にふれてさ…
あ現場で使うんだデジカメ
だから俺はそんな渚をいつも笑わせようと努めた
どうなりました？
半ケツの刑
人のこと無断で撮ったんだから相応の目に遭え…って
代償が大きすぎる…
お尻ですかっ おもしろいですっ
おもしろくないっての
クスクス



クス クス
生活は　上手くいってるとと思った
う――
食った食った
朋也くん
ん――？
…あの
お話が
あるんですが


――……
嫌だ
え……
それはそうかもしれませんけど…
…でも
わたしたち同棲して2ヶ月です
朋也くんには毎週うちに来てもらって嬉しいのですが――
お前がそうやって改まる時は俺にとってよくない提案に決まってる
わたしはまだ朋也くんのお父さんに会っていません…
――……やっぱり……
朋也くん卒業してから何度お父さんに会いましたか?
さぁね
…ここに来る時一度荷物をとりに帰っただけだよ
その時何かお話ししましたか?
別に……
朋也くん!
…それなら
明日一緒にお父さんに会いに行きませんか?


嫌だ
——……
でも…
渚
お前はわかってくれていたんじゃなかったのか…!?
俺とあの人の距離を
絶対に埋まらないミゾをさ


……
わかっているつもりです…
じゃあ
なんでそんな事…！
ですが最近の朋也くんは変わったと思います
今なら…もっと前向きな気持ちで会いに行けるんじゃないかって
そう思うんです
……
…お前は
何も知らねぇからそういう事言うんだよ
あ…
そうかもしれませんけど…
でもふたりで苦しい事をのりこえてきたはずです
ですから…
きっとこの事ものりこえられるって…そう思います
………
…わたし
お風呂わかしてきます


パタン
…本当にこんな事ものりこえられるのかよ…
こんなどうしようもない事も
ガチャ
……
あのさ…
手をつないでてくれるか？
ずっと


はい
――あの人に期待はしない
でも もう逃げる事はしたくなかった
何があっても絶対はなしません。
ビチャ
…いや 今はいい…
岡崎


じっとり…
…暑いな…
…手はなしてもいいんだぞ
あ
…汗 気になりますか？
その朋也くんさえよければわたしは別に——…
ちっ
って絶対はなさないですっ
……
はー
緊張ます
…悪いな
俺の問題なのにさ…
いえ
そんな…
少しでも
朋也くんの力に
なれるかもと思うと
嬉しいですから
…そっか
カタン
——おい
親父



…いつもああして床で眠ってるんでしょうか…
風邪ひきます…
いいんだあの人には関係ないいんだよ
―――ん…
おい
おい親父起きろ
のそ…
おお…
朋也くんじゃないか……
あの…
こんにちは
え…
初めまして古河渚と申します
…………
朋也くんとは高校の頃から色々と助けてもらって
仲良くさせてもらいました


――あの…
…ああ すまないね 少し驚いてしまったよ…
へぇ… 高校の時…
それじゃ 今は?
ぐっ
付き合ってる
!
そうかい そうかい…
へぇ… こんなにかわいらしい子が朋也くんと…
よかったねぇ… 朋也くん
――…


今はアパートを借りてふたりで住んでます
へぇ…どこだい？
近いです今度ご案内します
やめてくれ
家賃とかも大変だろう？
少し大変ですがでも大丈夫です
あんたに何がわかる
そう…
この家はね空き部屋だらけなんだ
だから辛い時はいつでも使ってくれてかまわないよ
あ…ありがとうございます
そう言っていただけるだけで嬉しいです
イラッ
………
なんだよそれ俺へのあてつけかよ
──あのお父さん
うん？


朋也くんの事…
長い間連れ出してしまってごめんなさいです
はっ
本当は…辛いのはお父さんの方かもしれません…
…いや…
――まさか
いつでも朋也くんを連れてきます
ですから――…
やめてくれ
それだけはやめてくれ…!!
ぎゅうっ
……
――…どうかしたかい?


――あ いえ…本当にごめんなさいです
…伝わった
――渚の言いたい事もわかる
〝家族らしく〟
――それがどんなに無理な事なのか
それは古河家との交流でよけいに思い知らされた
だって何も繋がってないんだ俺とこの人との間には
何もない
――朋也くん
はっ


え……
いや…話を聞いてたんだけどね
毎日この子の手料理を食べているそうじゃないか
——あ…ああ
うらやましい
私は毎日店屋物だからね
…だから なんだっつーんだ
——あの よかったらお昼ごはん作りましょうか?
——え…いいのかい…?
はいっ
——ね?
朋也くん
…ああ
——ガマンだ
飯さえ食えば後は解放される……


ガマンだ――…
よいしょっと…
それでは始めましょうかっ
びくっ
うおっ!?
俺の左手が危険だろっっっ!!
ですが手をつないだままですから この方法しかないんです
朋也くん一緒に頑張りましょうっ
↑切る係
押さえ係↑
――いいよ 俺の負け
手をはなしてくれ
…逃げたりしませんか?
しないって 昼飯食うまではいるよ…



岡崎さーん
…客か？
親父がいない…
──まさか
誰だ…!?
む…息子さんかい…？
…ああ 朋也くん この人はね 四條さん 仕事仲間なんだ
仕事…!?
…仕事って…何やってんだよ
古物商さ
初耳だ


帰れ
びくっ
——え…
——ま
また来るよ
岡崎さんっ
二度とくんなっ!!
はぁっ
はぁっ
クソ…ッ
…朋也くん…
この…っ
馬鹿かっ!
自分で
いいか悪いかの
判断もできねぇくせに
何やってんだよっ


──うん…
だけどね… 今度は大丈夫な気がするんだよ…
そろそろ私にもツキが回って来るんじゃないかと思ってね…
今まで いい事なんてなかったからね…
──何を 言ってる…?
ふ…
ふざけんなっ!!
勘なんかでそんな大事な事決めんなよっ!!
ダンッ
もう ウンザリだ
あんたはどう思ってるか知らないけど…っ
血が繋がっているだけの存在
それ以上でもそれ以下でもない存在
俺だって そんな自覚さらさらないけど───…!!


家族なんだよ
俺とあんたはっ!!
わかってんのかよ
親父っっっ!!!
ごほ…
——…
ほら…朋也くん
…今日は女の子も
来てる事だし…
それが言い訳か?
わな
わな
ぶるるっ
家族だと
言われて
肯定できない——…
それが
答えなのか?



――朋也くん？
……渚……
大きな音がしたのでびっくりしました
どうかしましたか？
――……
いや……
渚が止めてくれなければ殴っていた――……
それでは少し手伝ってもらえますかっ
大変な所にさしかかりますので
ああ……
その後は親父とは一言も口をきかなかった


今日は…色々とすまなかったねぇ…
いえ…また来ます お父さん
ああ… いつでもおいで
ぺこ
たたっ…
…朋也くん 今日は頑張りました
…あんな態度しかとれなかったけどな…
でも わたしは こんなのでもいいと思います
疎遠にさえならなければ
…そうか?
はい ちゃんと会いに行って最後までいました


…俺とあの人はどこも繋がっていないんだ
どこも通じていない
それでもいいのか？
ーーいえ
…その最後の繋がりが疎遠にならない事ではないでしょうか……
…年に数回でもいいんだと思います
繋がっているのか…
今もーー
…けれど
それが前向きな行動となって年に数回でもいいのなら
…耐えられそうな気がした
いつも逃げてばかりいた俺だったから



お疲れさまですーー
バタン
あちー
うわ 汗でベチョベチョだ
作業服くせー
ん？
じり じり
むわ…っ
岡崎くん 後でちょっと話があるんだけど いいかな
着替えておいで
あ はい
…話ってなんだろう
何かやらかしたかな…
最近は そんなミスしてないよな…？
ドキ ドキ
着替えたかい？じゃ かけてよ
あの…話って…？
芳野さんまで…
ドキ ドキ
堅くならないでいいよ 悪い話じゃないからさ



話っていうのはね
ええと 私の古い同僚がね 今は元請けの会社で部長をやってるんだ
そいつが現場監督できる人間を探してるんだよ
とりあえずは見習いとしてだけどね
はぁ…
待遇は良くなるし 給料は――… このくらいになるかな
はぁ すごいっすね
…で どうだろう 岡崎くん 行ってみる気はないかい？
え？ 俺っすか!?
だからお前に話してるんだろ
え だって芳野さんは… 俺なんかよりずっと適任じゃないすかっ
俺は駄目だ
俺は この会社を大きくしていきたいからな
ここはお前が行くべきだ


……
拾ってきた当時はどうなる事かと思ったが…
遠い目
数々の失敗をのりこえて…
お前は俺の期待にこたえて成長した可能性があるんだ
——でも
勘違いするなよ
俺の代わりとして行かせようってんじゃない
お前ならできると思うから話してるんだ
それとも何か気乗りしない理由でもあるのか？
あ——いえ
話が急なんで驚いて…
頭回んないつーか…
でも俺
ずっと芳野さんや親方さんと一緒に仕事してくって思ってて——…
それは違うよ岡崎くん
実を言うとね僕も最初は芳野くんに勧めたんだ
そしたら芳野くんは君を行かせてやってって言ったんだよ
…え
そうなんですか？



僕も今は 岡崎くんのほうが 適任だと思う
自信持って いいよ
……
もしかして… これってすごい チャンスだよな……
給料が上がれば 生活が楽になる
楽になれば 渚に無理させないで いろんな事ができるようになる――…
行って
勉強して
監督に なってこい
俺は お前の元で 働くのを 楽しみにしている
――あ
ありがとう ございますっ
――信じられない



あんなにも人間付き合いを拒絶していた学生時代から
こんなにも変わっていけるんだ人は
ハァ
ハァ
それは俺だけの力じゃないあいつのおかげだ
おーいっ渚ーー!!
朋也くん!?


聞いてくれっ すごくいい 話なんだっ
待ってください 朋也くん まだここは 学校の中です
別に いいだろ そんな事っ
じたばた
落ちついてください わたしはどこにも 行きませんから
……
むう…
帰りながら ゆっくりお話 しましょう
――…… これ以上 ガマンしたら 鼻血が 出るぞっ
出ません
――時々 ふと考える
あの時 もし渚に 会わなければ――
俺は こんなにも 頑張る事が できただろうかと



答えはノーだ
俺はあの時渚じゃなきゃ駄目だったと思う
たっ
くるっ
はい 学校を出ました 聞かせてくださいっ
…なんか タダで聞かせるのが 惜しい気が してきたぞ…
クスクス
その言い方 お父さん みたいです
なにっ!?
聞け コノヤロウ!
ますます 似てますっ
ぐあー
俺は 運が良かった
この坂道で
喜びも苦しみも わかち合える 存在に出会えた

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック


ヤッ
夏だっ!!
そして海!!
ザザーッ
小僧! ここで問題だっ
足りないものと言えば!?
はぁ!?
何だよイキナリ
3択だ!
①水着ギャル
②水煮キャロット
③水木しげる
さぁ どれ!?
―――…


秋生さーん
朋也さーんっ
おまたせしました〜っ
第26回〜青天の霹靂〜


更衣室が少し混んでて遅れてしまいました
グッ
目のやり場に困る
ああ…さすがは早苗サイコーだっ
でもやっぱりちょっと恥ずかしいですね
どうですかっ朋也さん？
えっ!?
俺っ?
いや…全然問題ないっすよく似合ってると思いますよ
…そのふたりとも
姉妹に見えるんだけど…
えっと向こうに場所とってるんで行きましょう
はいっありがとうございます
夏休みに入りみんなで海に来た
学生の頃当たり前のようにあった夏休みも今ではないものとなった
社会人になるとはそういう事なのだ


ありがとうございます 荷物は見てますから行ってきていいですよ
あ それじゃ お言葉に甘えて…
どどん
ちまっ
――…
あ…あの 朋也くん わたし おかしくないでしょうかっ
え？
大丈夫 似合ってるって
でも…
また 渚の悪いクセだな それ
言ったろ？ 自分の事けなすなって
自信持てよ
俺の好きな人の事 毎回否定されるってことだぞ
それは すごく嫌な感じです。
――あ…
回想


それじゃ もう一度
えっと… わたし 似合ってると 思います かわいいですからっ
はっ
——って 自分でこんな事 言ってたら ヘンな子です わたしっ
だははははは
や 悪い悪い
小僧 てめえ…
ゴゴゴゴ
産みの親の 目の前で イイ度胸 じゃねーか…
勝負しろ 野球で!!
…産んだの 早苗さん だけどな…
ゴゴゴゴ
んな細けえ事は いいんだよ!
断るっ!



人に当たったら危ないだろーがっ！
安心しろ…おめえにしか当てねぇよ…
余計悪いわっ
ふふ ふたりともあんなにはしゃいじゃって
それじゃ 私たちは一足先にバーベキューの準備始めちゃいましょうか
はいっ
手伝います
ありがとうです。



――そして
短い夏休みは
あっという間に
終わった
休みは
満喫
できたか？


こんがり
はい
海に行ってきました
ほう
彼女か
ええ
彼女つーか その家族も一緒ですけど
家族ぐるみの付き合いがあるのか 今時珍しいな
芳野さんはどうだったんすか
公子さんとどっか行ったりしたんですか？
——さぁ、どうだろうな
あ 岡崎くん
例の就職の話 来週移動になると思うから
準備とかしといてね
あ はい
気を抜くなよ
ひとつでも多くの事を覚えて行け
コツ
コラ



は…はいっ
―…
そっか…
芳野さんと仕事するのもあとちょっとなんだよな…
芳野さんっ
たっ
俺…一番最初の先輩が芳野さんでよかったっす
…なんだ急に気持ち悪い奴だな
……
ガチャ
ただいまー
おかえりなさいです朋也くん


ただいまっと
汗だくだな 渚
俺もだけどさ
これ かき混ぜてないと コゲちゃうんです
あ
ありがとうございます
…じゃあ
何されても動けないな？
ギュ
――あ はい
動けないです…
おちつく…


シャワー あびてからじゃなくてよかったですか…？
どうせすぐ汗かくし
扇風機しかないもんな… 1日この部屋にいるのキツイだろ
西日とかすごいし
いえ 色々考えながら朋也くんの帰りを待つの楽しいです
でも 実家の方が涼しいだろ？ なんなら日中だけでも
——でも わたしの家はここですから
この部屋で朋也くんの帰りを待って 夕飯のメニューを考えて——
そういうのすごく楽しいです
渚——…
俺たちの家——…
カチッ
はい 終わりました
もう危なくないです
俺の居場所


んじゃこっち向いて
えっと
こう…ですか?
もぞ…
渚の実家で居候していた頃より
ずっと大変なはずなのに
あの頃よりずっと
安らいでいた
ぎゅっ
この先も
それはずっと
続くんだ
——渚
あ…
きっと——…
朋也くん…



プルルルルッ
ドキーッ!!
すみません…
朋也くん
電話ですので…っ
プルルルルッ
チャ チャ
プルルルルッ
もしもしっ
はいっ
…はい
ほっといても
どうせ後で
かかってくるのに…
ちっ
朋也くん
え
俺?
はい
木下さんという
男性の方
からです
木下…?
誰だっけ…
はい
かわり
ました
朋也くんかいっ!?
——あ
この声…
親父の昔の
仕事仲間の…
はい
そうですけど
どうしたん
ですか?



あんたの親父さん…捕まっちゃったよ
――え…



え？
……
——なんて？
なんか…
やはいもん取引
してたんたって…
…どうしたって？
…なにが？
ね
朋也くん
聞こえてる!?
——わからない
…親父が——……
なんだって…？
なぁっ
朋也くんってば！



あんたの親父さん警察に捕まっちまったってそう言ってるんだよ！
何もわからない
…そうだ
さっさの子にかわってくれよ
話しておくから——
するっ
ゴトッ
朋也くん…!?
あ…
あのっ
もしもし？
…はい
——はい
何も わからないんだ
——ああ
いつから俺は
こんな馬鹿になっちまったんだ


小さな町だから噂が広まるのは早かつた
数日後俺は親方に呼び出され
〝悪いが就職の話はなかつた事にしてくれ〟と言われた
誰も岡崎が悪いなんて思ってないよ
ここでは今まで通りに働いてくれればいい
みんな岡崎くんの事はわかってるから
…でも
ちょっと時期が悪かったよね…
──ああ


ずっと頑張って…
手に入れようと
していたものなのに
頑張っていれば
その先には
ちゃんといい事が
待ってるんだって…
そう思っていたのに
——なくしてしまった
俺のせいじゃなく
あの人のせいで——……


俺はもう あの人と無関係で 生きていけると 思ったのに
全部 自分の手で なんでもできると 思っていたのに
愛する人も 俺の手で 幸せにできると 思っていたのに
ああ こんな事ってない
俺は 呪われているのか ——あの人に


朋也くん
待ってました


──お前……
こんなとこで
何してんだよ……
わたしも
一緒に行きます
お父さんに会いに
駄目だ
戻ってろ
いえ 今だけ
わがまま
言わせて下さい
とても
大事な事
ですから
…俺には
大事な事かも
しれないけど……
お前には
関係ないだろ
…そうかも
しれないですけど
でも
わたしだけは
わたしにも
大事な事だって
そう思いたいです
──勝手にしろ


電車がまいります
白線の内側へ…
ザワ
ガタン
ザワ
ガタン


パタン…
面会時間は15分です
ギシッ
――…
親父…
この人のせいで俺は――…
…あんたはっ
一体…何がしたいんだよ…っっ!!


人の人生の邪魔して楽しいのかよ…？
俺はあんたを親だなんて思ってねえ…
けどな…世の中はそう思ってくれねえんだ
俺はあんたの――
犯罪者の息子なんだよっっ
――…



なんとか言えよっ!!
口もきけねえのかよっっ
朋也くん…っ
――…
もういい……
もう何も話す事なんてねえよっっ
そのままそこで一生…
不自由な生活してろっ!!


バタンッ
朋也くんっ
どこを
どう歩いたのか
覚えていない
はぁ
はあっ
ただ怒りで
目の奥が
チカチカして
気づいた時には
眩しい
陽の下にいた



グ…
ガクッ
ガク
クソ…
腕の震えが止まらない
じ…
ザッ
しずめないと
！
朋也くんっ!?
何やってるんですかっ朋也くん！


朋也くんっ
こら…！邪魔だろ…っ
ブンッ
邪魔してるんですっ！
馬鹿な事しようとしてる…
朋也くんの邪魔してるんですっ!!
馬鹿な事じゃねえっ
こうしてないと収まらねえんだよっ!!
朋也くん…！正気じゃないです…っ!!


俺は正気だよっ
冷静だよ！
だからこうするしかないんだっ
朋也くん…っ!!
ぴた。。。
わかりますか
渚です…
朋也くんの彼女の渚です
朋也くんを大好きな渚です


――…
それで
朋也くんも大好きでいてくれてると信じてる渚です
……
違いましたか?
――いや…
合ってる…

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック


いや…
合ってる
だって俺も
渚の事大好きだから
親父への爆発しそうな思いが消えていく
第27回 ～その一球～


朋也くん…
辛かったですか
――うん
ならすがってください
他の誰でもない
朋也くんのためだけにです
わたしは今朋也くんのためにここにいるんです
渚…


渚の温もりが
俺を繋ぎ止めてくれる
怒りの感情は消え
渚を思う
穏やかな気持ちへと
変わっていった
…落ちつきましたか？
ああ…
手が痛い…
あ…
お風呂に入ったらしみますきっと
だろうな…
シャワーだけにしとくよ…


なぁ 渚
はい
結婚しよう


はい
――即答
…いいのか？
はい　わたしも朋也くん以外にいないと思っていました
だから嬉しいです
――俺こんな情けない男だけど…
それでもいいのか？
そんな事…！
わたしだって情けないです


――でも
でも わたしたちは お互いを支えとして 頑張っていけます
そうして 今までも 強くなってきました
これからは もっと 強くなって いけるんです
ふたり 一緒なら
――ああ
渚が 一緒にいると 言ってくれる
それは なんて 幸せな事だろう


ずっとそばにいてくれるか？
はい ずっとそばにいます
いつまでもどこまでもです
…ありがとう
それなら何度だって立ち上がれる
なら俺は渚を幸せにする
——いつまでも
はい…
お願いします
ふたりで生きよう



土曜日
…娘を他の男に取られるってのはどんな気分なんだろうか…
例えば今…俺が渚を失う事があれば絶望する…
それに似た苦しみをあのふたりが味わうのだとしたら――…
キ〜ゅっ
――いや
例えそうでも
俺は渚が欲しい


ひとつ確実なのは 世界で一番 俺が 渚を必要としてる
渚も そうだと 信じている
誰が邪魔しても 無意味なんだと 思う
ここは 男らしく 行こう
すぅ…
はー
男らしく……!!
ドッキンドッキン
どどどどど
ええい!!
ガララ
おはよう ございますっ
あら 朋也さん
今日は 早かったですね
あ…
はは い
キョロ キョロ キョロ
ドキドキ
…ところで オッサンは……?
秋生さんなら 目を離したスキに どこかへ遊びに 行っちゃいました
どしゃっ


すみません 昨日の電話で 今日来るって事 伝えておいたんですが…
オザン…
いえ… 早苗さんは 悪くないっす
…大事な お話が あるんですよね？
ドキ…
──はい
──早苗さんには 見透かされているのかもしれない
…お父さんの件は 大変でしたね
あ いえ 俺は大丈夫です なんて事ないっす
──ただ 情けないっす
就職口を 失って… 渚にも迷惑 かけて しまいました
情けないなんて 思っていませんよ 渚も私も秋生さんも
就職のお話は 残念でしたけど
道は 一本では ありませんから



あの子だって どんな道でも 朋也さんと一緒に 歩いてくれるはずです
そうですよね？
――……
……ええ
そう言って くれてます
やっぱり
かなわないな 早苗さんには
どうか 信じてあげて くださいね
はい
ガラッ


あーークソ
あんのガキ共め…
ぬっ
オッサン!
んぁ?
なんだ小僧
なんでてめえがいるんだ?
連絡したろ
今朝顔を出すって
けっ
いちいちんな事覚えてられっかよ
てめえは今までに食ったパンの枚数を覚えてるのかあァ!?
ばーーん
ぐ…!?
…いや
落ちつけ
今日は大事な話をしに来たんじゃないか
オッサン
俺 大事な話があるんだよ
聞いてくれないか
あん?
――なるほど
いい目じゃねえか
――そうだ
この人は真剣に向かえば
俺の話をちゃんと聞いてくれた


聞いてほしいか小僧…
きた!!
ああ…今回はマジなんだ
そうか
それなら——…
真剣勝負だ
ミーン
ミーン
ポン
ポン
まあホームランとは言わねぇ
ヒット性の当たりならてめぇの勝ちにしてやるよ


そしたら話を聞いてやらぁ!
ビシ
俺が馬鹿だった!!
この界隈でパンを焼く野茂と呼ばれた男だぜ俺は…
時速160キロのストレート受けてみよっ
わははははっ
プロへ行けっ
…くそ 要は打ちゃいいんだろ 打ちゃ
——いや
話を聞くだけじゃねえ!
俺が勝ったら無条件で黙って頷けっ
なんだと?
話を聞くくらい誰にでもできるだろっ
…おもしれぇ
その条件のんでやらぁ
そんかわし俺が勝ったらおめーの話なんざ聞く耳持たねえぞ
お…おうっ
打ちゃいいんだ打ちゃ


いくらオッサンか凄いっつっても…
ぐ…
前に飛ばすくらい俺にもできる!
来いっ!!
1投目
ザッ
ブン
2投目
ブン
ガシャン
3投目
ブン
てん てん



三球三振
完敗…
ザクゥ…
…は
はええ――!!
おい小僧
てめぇ肩になんかあんのか
!?
がばっ
あんな変なスイングで打てるわきゃねーだろっ
…別に何もねぇよ
…ふん
まぁそれを言い訳にされても聞かねえけどな
勝負は勝負俺の勝ちだぜ小僧
約束忘れんなよ
――くそ…
俺はバットさえまともに振れないのか…
――ていうか…



アホか…っ
俺は…!!
大丈夫ですかっ
朋也さん
せっかくのチャンスを…
おい
オッサン!
ああ?
話を
聞けだぁ?
そうだよっ
あんなんで
ダメだなんて
馬鹿げてるっ
馬鹿は
てめぇだ
男と男の
約束に
二言はねぇ
大体なぁ
勝負っつー名目で
戦った以上
内容なんて
関係あるか
水道管ゲーム
だろうが
野球拳だろうが
真剣にやるのが
男の勝負だ
違うか?
うっ…
で でもっ
ううう…
ま
かするくらいには
練習してこい
やりたきゃ
いつでも
再戦してやるよ
せいぜい
小学生よりは
楽しませて
くれよな
わはははは…
くそおおー—っ!!!



今日は帰りますか？
早苗さん…
俺アホっす…
話もろくにつけられないままでした…
打っちゃえばいいんですよそんなの
それなら秋生さんも何も言わないです
いや…でも…
え…
それじゃバット振るのができないって事ですか…？
――その…
渚にしか言ってないけど実は俺右肩痛めてて不自由なんです
あ いや そこまでは…
ただ 思い通り上がらないってだけで…


それなら努力すれば届くかもしれませんよ
…もし
それでもダメだったら私に相談してください
——はい
そうだ
俺は知っているはずだ
努力すればいつか届く
それがどんな事でも～
不格好だったとしても


翌日
ふん… こりねーな 小僧
たりめーだ 今日こそ勝つ!!
ちっ しゃーねーな
落差1メートルを誇るフォークを受けてみよっ!!
プロへ行け!!
ーが 三球三振



さらに翌日
ザアアアアッ
なんでこんな雨の日勝負しねえとなんねーんだ!?
俺たちゃ高校球児かっての!!
ふたりとも一お風呂の準備できてますからねーっ
お—ぅ
真剣勝負には場所なんて関係ないだろ?
む…
確かになっ
だが小僧俺はもうこりごりだ
これが最後だ再戦はもう受けつけねえ
ドク…
最後…
ああ…わかった
ドクン…
ドクン


ザァーー…
ちっ
とっとと終わらすか
きゅっ
行くぞ小僧…
7つに分身する魔球を受けてみよっっ
カッ
雑技団に行けっ!!
ダッ
ザッ
ス
カッ



わかったろ小僧…
終わりだ
てめえには俺の球は打てねえ
なんべんやっても無理なんだよっ
―…
終わりだ
…ムリなのか?
このままあきらめるのか?
…っ!!



あきらめるかよ!!
頼むっ もう1球だけ…
1球でいいから勝負してくれっ!!
頼むっ!!
―…
なんだってんだ コイツは
なんでそんなに必死なんだよ
勝てねぇよ おめぇには
いい加減悟りやがれっ!
そのくらい力の差があんだよ てめぇと俺様にはっ
ザァーー…


――……
早苗さん……
……あの人 本当は わかってるんじゃ ないっすか？
はい？ 何がですか？
……何か 教鞭垂れられてた 気がするんですけど
お前は まだまだ子供 なんだって
誰かを守るなんて おこがましいって ――……
考えすぎ ですよ
……そうっす かね……
ザァァァァ…
……雨 強くなって きましたね
戻りましょうか
……いえ 俺は残ります


力に差が
あるんだったら
後は熱意くらいしか
残らないっすから
はいっ
今回ばかりは
止めません
とても大事な
事ですから
風邪ひいても
頑張ってください
倒れるまで
――俺
早苗さんの事も
好きっすよ
はいっ
ありがとう
ございます


もう二度とやる事はないだろう野球
1球でいい
この1球のために
かぁ…ひでー雨だなオイ
ボール見えるのか?
きっと縫い目まで見えるよ



上等！
最後の1球だ いいなっ
おう！
ドクン
ドクン
―こんな真面目に野球する時が来るなんてな…
ギリ…
ドクン
ドクン
いち
に
さん
ここだっ


ホームランッ!!
パチ
パチ
パチ
パチ
…っ


バチャッ
渚(なぎさ)を俺(おれ)にくださいっっ
ドッ
ドッ
ドッ
ドッ


――かぁっ
…俺に似てるぜこいつ
私はとっくに気づいてましたよそっくりです
大人になりたくてはやってたんだ
まだまだガキのくせによ
だからこそですよ
ああ…そうだな
おい お前 泥で洗顔パックでもしてんのか?
――え
その…答えは…!?
てめぇは自分で言った事も忘れたのか?


勝負に勝ったら自分の言う事に黙って頷けって言っただろうが
それ聞いた直後に俺は頷いてんだよ馬鹿っ
お噂をすればだなお姫さんのお着きだ
――ああ
話したい事がたくさんある
聞いてくれるか渚これからも ずっと



第28回～新たなはじまり～


ザァアーー…
朋也さん
渚はわたしたちの夢です
そして――これからは朋也さんもわたしたちの夢です
早苗さん…
ふたりの夢がわたしたちの幸せなんです
ニコ。。。
幸せになってくださいね　あの子と一緒に
――は…
じ…へ



はい…！
じーん
コラ
岡崎
聞いてるのか
あ
…休みボケ
みたいだな
気合入れろよ
は…はいっ
すいません！
行くぞ
はいっ
辛い事 嬉しい事が
一気に訪れた夏が
終わろうとしていた
一度 どん底まで
落ちた俺だけど…
大切な人のおかげで
這い上がる事が
できた
渚さえ そばに
いてくれるなら
俺は――…
きっと もう
なんだって
乗り越えられる


──そして
俺と渚は無事婚約した
つい昨日の事だ
籍を入れるのは渚が卒業してからか…
まだ学生たもんな俺より年上だけど
すげー違和感
たったっ
──でも不安なんてどこにもない
ふたりの幸せがわたしたちの夢なんです
幸せになってくださいね
あの子と一緒に
おい
ドッ
ぶっ
何してる
…すいません
…まあいい次の現場はひとりでいけるな?
あ


はいっ
どんな事も乗り越えていこう
そして渚と幸せになる
それが俺の生きる意味
渚ー
おーい渚…
はいっ


そっか もう今日から新学期か
なつかしいな
はい 制服を着るの久しぶりです
えっと どうしましたか？
ああ…悪い 替えの作業服ってどこだっけ
あ はい 今用意します
てててて
さぎょうふくぅ
……！
♪さぎょうふくっ さぎょうふくっ
ゴソゴソ
ああ…… いいもんだな こういうの…
改めて じーん
仕事も頑張れそーだ…
はい 頑張ってください
…わたしも 2学期しっかり頑張ります


――そっか
よく考えたら 渚は今まで 3年の2学期以降 ずっと 休んでたんだ
クラスには 友人もできなくて… 辛いに決まってる
けど 泣き言の一言も 言わなかったな――…
…朋也くん？
――ああ サンキュ
ぽん
はい 朋也くん 作業服 ありましたよ
わ… 急に どうしましたか
いいだろ別に へるもんじゃ ないし
なでさせろっ
これは きっと 壁なんだ
渚にとっての 乗り越えるべき壁


俺がついてる
だから頑張れ 渚
あ
朋也くん時間大丈夫ですか?
うおっ行ってくる!
——そうやって俺たちは
今まで以上に力を合わせて生きていく



渚が辛そうな顔をして
帰ってきた夜は
渚の手を握って眠った
俺の精神が疲れきって
しまった夜は　渚と
抱き合うようにして眠った
その繰り返し
あんなにも
求めていたものは
すぐ近くにあったんだ
気づけば
冬が来ていた


——うん
おはようございます朋也くん
渚
誕生日おめでとう
9
16
17
24 クリスマスイヴ
すす…
1年で一番楽しみな日
俺と渚はペアの腕時計を買った



その日の帰り道――……
……朋也くん 家にあるのと色違いです……
……だな
あの 朋也くん
ひとりぼっちなのはかわいそうなので
家に連れて帰りたいです…
そう言うと思ったよ
ギュッ
ありがとうございました～
みちっ


大変です！
すっごく
かわいいですっ
そりゃ
よかったな
…渚はもう
今日 腕時計を
買った事なんて
忘れてるんじゃないだろうか
やれやれ…
けど
これが
俺の知ってる
渚だ



そういう所は ひとつも変わらない
なんだか 笑えた
おせち 持ってきました
おう 準備はいいな
あけまして おめでとうございます！
残念ながら 小僧に お年玉は なしだ
もらうかっ！
ていうかくれたこと ないだろ あんた
わたしも いいです 大人ですから



正月は少し珍しい事があった
今年もよろしくお願いします
あ こちらこそ
お渚 おめぇ今年20才だよな
はい こないだ20才になりました
よし 呑め
俺が19才で渚が20才
すげー違和感
あぐ
え… でも呑めるかどうかわかんないです
かあっ
悲しいなぁ オイ
おめぇが20才になったら呑めるって言うから まだか まだかと この日を指折り楽しみにしてたってのによ…!!
うおおお
わたしもあまり呑めないので 秋生さんはひとりでずっと呑んでたんですよ



…お父さん寂しかったですか…
おう！ずっと待ってたからな！
おいおい大丈夫か？
はい…多分1杯だけなら…
——…わかりました1杯だけ呑ませていただきますっ
よしっ！さすがは俺の子だっ
とく とく とく
——では
どきどき
くぴっ
こくん…
ひゅーーっ
いい呑みっぷりじゃねーか


よし！もう1杯いくかっ！
秋生さんダメですよっ
う…
大丈夫か？
…なんだか顔がほてってきました
ぽや～…
日本酒は一気にくるからなー
じぃ――…。。。
ぼや～
ん？
…どうした？気分でも悪いか？
なんだか朋也くんが遠いです…
もっとそっちにくっついてもいいですか？
え
ん～～～っ
こ…こらっ親の前だぞっ!?
渚!?
渚――!?
ぐいぐい


ふふふ ラブラブですねっ
小僧てめえ 俺に感謝しろよ…
ゴゴゴゴゴ
いや… はははは…
ドキドキ
すやすや
親の目の前でイチャつくなんて
渚… 恐ろしい奴…!!
す――…
もちろん目を覚ました渚は覚えてなかった
うー
さみー…
それじゃ仕事行ってくるな


ちゃんと寝てるんだぞ渚
はい 行ってらっしゃい
3学期が始まる前に渚は体調を崩した
具合はどうなんですか早苗さん
いつもの微熱が出たみたいです
安静にしてればそのうち熱は下がると思います
…だから安心してください朋也さん
いつものと言う事は長引くと言う事だ


毎日様子を
見に来てくれる
早苗さんにお願いして
俺は
仕事に行く
ザッ…
わたしはこの家で
朋也くんの帰りを
待っていたいです
周りの人に
迷惑かけて
申し訳ないですけど
ここがわたしの
家ですから…
――……
俺は俺の
やるべき事がある


早苗さんがなんのために毎日来てくれてんだ
俺が心配ばっかしてたら意味ないだろ…
そう言いきかせて家を出る
早く良くなれ渚――……
ガチャ
ただいまー
お帰りなさい朋也さん
わっ早苗さん!?
すいません手伝います
いいんですよ
今日はちょっとお話があったものですから
話ですか?
ドキ。。。
はいその前に夕食にしましょう
いただきます!


実は今日
渚の担任の先生とお話してきました
これまでの成績学習態度からいって
もし このまま3学期を休んでしまっても卒業できるそうですよ
渚 よかったですね
え…本当ですか?
はい
問題ないそうです
やっと卒業……!!
よかったな渚!!
はい…
ありがとうございます


あれ…？
…嬉しくないのか？
いえ…
でもまだ終わったわけじゃないです
このまま卒業してしまうのは寂しいですから
残りの学生生活
1日でも多く出席したいです
…渚…
残りあと1ケ月……
熱だって下がる気配ないけど
…そうだな
頑張れ 渚
あきらめるのはまだ早い


――これで
春には
入籍できますね
――はい
見送り
ありがとう
ございます
いえ
こちらこそ
ごちそうさま
でした
きっと
入籍したら…
もっと仕事とか
頑張れると
思いますよ 俺
今から
待ち遠しい
です！
ふふ…
渚は あの通り
身体が弱い子
ですが
末永く
よろしく
お願いします
あ いや
こちらこそ…！
ペコ
ペコ
――ん？
なんか前にも
こんなやりとり
したような…
クスッ
そうですねっ


朋也さんは本当に――…
渚を好きでいてくれるんですね
!
あ…当たり前っすよ
元々俺が告白して付き合いだしたんだし…
俺自身何度も渚に助けられてきましたから
…あの子も幸せだと思います
渚も朋也さんという支えがなかったら
ここまで頑張れてたかわかりませんから
…だといいですけど
本当に…あいつが俺の事を好きでいてくれてるのも奇跡みたいなもんですから
奇跡…ですか?
ええだって他にもいたはずですよ
あいつを支えて幸せにしてくれる奴が――…


いません
朋也さん以外に あの子を幸せに できる人はいません
他の誰でもない…
朋也さんだからですよ
――はい
やっぱり俺 この人の事も 大好きだった


卒業式まで
あと1週間
渚の熱は
まだ続いていた
渚ぁ
お茶
入れたぞー
熱いから
気をつけろよ
はい…
ふー…
ふー…
…このままだと
卒業式への
出席は絶望的だ



少しずつ…良くなってきてるんだ
くそ…せめてあと1ヶ月先なら――……
しかし無情にも時間は過ぎていく


渚は家の中で卒業式を迎えた
制服を着る事なく見送る人もなく
――渚…
…卒業 おめでとう 渚
――はい
とても良く晴れた日だった


ー春
4月になって渚の熱はやっと引いた
朋也くん朋也くんっ
ん？
じゃーん
制服ですっ
おクリーニングか？
はい戻ってきました
もう着る事はないと思いますけど
大切にしまっておきます
…そっか



制服……結局あのまま一度も袖を通せないままか――…
最後に一度でも着る機会があれば――…
何か…ないかな
ぐび
――いや …無理だろ それは…
はは…
んな馬鹿な事 一体誰が付き合ってくれるって言うんだ
誰が――…
――…
…いるじゃん


ドサ
バサッ
すっかり忘れていた懐かしい顔
えーっと春原…
パラ パラ
確か東北だっけ…実家の方に戻ったんだよな
鈴木 鉄夫
春原 陽平
住井 潤
あった…
ピ
ポ
ポ
ペ
卒業以来一度も連絡なんてとってないし
あ…岡崎と申しますが陽平さんはご在宅でしょうか?
…え 寮?
それじゃあ連絡先をお願いできますか?
はい…
馬鹿ばっかやってた学生の頃のあいつしか知らないけど


俺が馬鹿やる時は
必ずこいつが
付き合ってくれた
プルルル…
ガチャ
…はい
さつき寮です
岡崎と
申しますが
春原陽平さん
お願いします
はい
少々お待ち
下さい
もう一度
あの頃に戻れるなら
やり残した事も
きっとできるはず
——はい
かわりました
…春原か?
俺だ 岡崎だ
えっ?
マジかよっ!?

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック


だい　かい
第29回
～ここにいる～



デートですか？
ああ
明日行きたいとこがあるんだいいかな
はいっもちろんです
どこに行くんですか？
あ――……
…それは行ってみてのお楽しみだ


…内緒なんですか？
別に変なイミじゃないぞ
ただ単に お前をびっくりさせたいだけだからさ
びっくりですかっ 一体どこだか気になります
だろ？
楽しいのは保証するから安心してくれ
わかりました 楽しみです 明日
うん
――で だ
そこでひとつ提案なんだが
はい？
制服を着ていこう
明日



え
あの…
制服って高校の制服の事ですか…?
ああ
も もちろん俺も着る!
悪いようにはしないからさ!
変なシュミじゃないぞっ
うーん…
制服…
…それもびっくりの中に入ってるんですよね…?
おう!
コクン
…わかりました
朋也くんがそう言うなら…
…知ってる人に見られて
卒業してもまだ制服着てるヘンな子って思われても恥ずかしくないですっ
ま 大丈夫だろ
ハハハ


ホントに大丈夫でしょうか…
大丈夫だってむしろ俺の方が卒業したの前なんだぜ？
コッチのが恥ずいだろ
あ
――渚は知らない
俺たちの計画を
明日――…晴れるといいな
次の日
ん…
…なんか久々すぎてキンチョーすんな



おーーい
準備できたか
渚〜〜〜
はい
大丈夫です
卒業した
後も
制服なんて…
なんだか
変なカンジも
しますけーー…
ど
ん？
どうした？
ぷーーっ
何っっっ!?


やっぱり何かおかしいのかっ!?
どこだ!何が変!?
ちがうんです
同じだからです
朋也くん全然変わってません
あの頃と同じそのままです
――…
それはそれで複雑なものがあるな
渚はそのまんまだし
クスクス
おっと のんびりしてる間はないな そろそろ行くか
はいっ
…なるべくご近所さんに会わないように行きましょう
了解



お〜〜〜〜〜
い──天気だなっ
もう春だな
それは何もかもが絶好の1日で
ふふ そうかもしれませんね
きっと
渚にとって忘れられない1日になる
──あれ？
この道…
もしかして学校ですか？
ピンポーン
え…怒られないでしょうか…
大丈夫だって


今は春休みだし
誰も迷惑
しないさ
ホラ
上見てみ
——上？
ザァァァアッ
——わぁ…
きれいです…！
なっ？
まだ
散ってなくて
よかったよ


…見せたかったのってこれですか？
ありがとうございます
いや
まだまだ序の口だ
すっ
見せたかつたのはこんなものじゃない
――？
…なんですか？
思いついたのは数日前
まっさきに浮かんだのは学生時代の友人の顔だつた



卒業式ィ!?
ああ
いいか よく聞けよ 春原
渚がこの春 やっと 卒業したんだ
クラスに友達 いなくても ひとりで 頑張ってな
へぇー お前らまだ 付き合ってたの? すげえじゃん
バカ 黙って聞けよ
でも渚はまた 体調を崩して 卒業式には 出られなかった
そりゃねえって 思うだろ?
ああ…
…だから 俺たちでさ
あの頃 仲間だった俺たちで 卒業式がしたい
もう一度 渚の事 送り出すんだ
……
…悪い
今 研修中なんだ… 休んだりしたら クビになっちまうよ…


…そっか
それについては悪いな
クビになれってか!!
んな1日休んだくらいでクビになんてならねーよ
なるんだよ… 一応上には聞いてみるけどさ…
ああ… 俺のためにも頼むぜ
渚ちゃんのためだろっ!!
わかったよ… んじゃ 休みがとれたら連絡するよ あんま期待はするなよな
あ そっちからはマズい
岡崎… もしかして同棲してんの?
あれ? 言ってなかったっけ?
なんで?
渚が電話に出るかもしれないから
時期を見てこっちから連絡する
――……
もしもし?


僕 お前と話すの1年振りなんですけど…
つーかひとり幸せそうですねぇ
そういや そうだっけ
…なんか段々クビをかけてまで行く気が失せて来たんだけど…
失せても来い
僕 めちゃめちゃいい奴っすね!!
だからお前に頼んでんじゃん
――…!
――ちっ
――わかったよっ なんとか頼んでみてやるよ
ああ それじゃ また連絡する
おう
カチャ
頼んだぜ 春原――…
俺たちならきっとやれる


雲ひとつない
青空
満開の桜
そして——…
みんなの予定が
1日に合った
奇跡のような日
やあ
久しぶり
渚ちゃん
岡崎
——…
春原さん…？
無理だなんて
思わなかったから
さあっ


ここにいる
──みなさん…


やあ 久しぶりだな
元気してた?
ははいっ
わははは
誰だ お前
呼び出しといて そりゃ ないんじゃない!?
ていうか 見たこと あるだろっ
よしよし 後でキンキンに 染めてやるからなっ
ははは は
本当に クビになるよっ!!
ごぶさた してます
しかしまあ 制服なんて 1年振りに 着たわよ…
あの…でも
今日は みなさん どうして……
卒業式だよ
古河渚と その親友一同のな



卒業式――…
ジャッ
――さて…
では
そろそろ
始めるか
ザァァァ…
これより
古河渚と――
その親友一同による
卒業式を行います
暖かな日を受けて
十数人だけの
式が始まる
校歌斉唱


みんな 誰よりも
大きな声で歌った
自分の卒業式の時の
何倍もの声で
それは
どこまでも
すいこまれるように
高く 空へと
響いた
卒業証書
卒業証書
授与
古河渚
はい


おめでとう
——ありがとう ございます


この学校での生活――……
わたしはただでさえ引っ込み思案で友達を作るのが苦手でした
それでも2年が終わる頃にはやっと 輪に入れてくれる友達ができて――
3年になったらもっと仲良くなれるかなってそう思っていました
渚がゆっくりと語り始める
それは 送辞のない答辞だった
――でも次の1年はほとんど学校を欠席してしまって…
次に登校できたのは始業式から2週間もすぎてからでした
辛い事たくさんありました


新しいクラスでは もう ひとりきり だと思いました
時間の流れの中で 変わらないものは なくて――…
それを知ったら もう動けなくて…
わたしは坂の下で 立ちつくして しまいました
…そして
その背中を 押してくれたのが 朋也くんでした
見つければ いいだろ 楽しい事なんて
その日から 毎日――
坂の下で悩んでる わたしの背を 押してくれました
変わっていくなら 新しい何かを 見つければいいって


——わたしは演劇部を作ろうと思いました
いろいろな人に支えられてそれは本当に実現しました
ひとりではできない事でも力を合わせればできるって知りました
創立者祭があり演劇の発表をしようと練習しました
本番は舞台上で泣いてしまいましたけど最後までやり遂げる事ができました
こんなわたしでも
たくさんの人に支えられて初めて——……
ひとつの目標に向けて
頑張って達成する事ができたんです
…それからまた体調を崩して
わたしは家でずっと寝ていました
——でも
渚の答辞は続く


2学期3学期とすぎて――…
わたしはそのまま春を迎えました
みんな卒業していきました
今度こそわたしはひとりっきりになってしまった…
そう思いました
それでももう1年
わたしは頑張ってみようという気になりました
わたしは強くなりたかったんです
体は弱いけど――
それでも強く生きたかった
――そして
そんな勇気を下さったのがここにいるみなさんです


ひとりきりの1年間は辛かったです
今日の この日で学生だった日々が終わる
だからこそ それがどれだけ辛かったか 俺は知ってる
班分けの時は いつもひとり 残っていました
クラスメイトとは 2歳も年が 離れていて
わたしは 違う世界の 人間のようでした
球技大会では クラスメイトに 迷惑かけてばかりで…
創立者祭も ひとりでした
——渚
ずっと近くで見ていた…
見守る事しか できなかった


この1年は ほとんど ひとりきりでした
そうして 1年が経つた
きっと俺たち 1年も頑張ったら
なんにだって 負けないくらい 強くなってるよ
全てを 乗り越える事が できただろうか?
――それでも
それでも やっぱりわたしは


二度とない
この学校生活を
かけがえなく
思います
一度は嫌いに
なってしまった
学校ですけど…
なにこれ
演劇部―?
あー これ
ウチのクラスに
いる――…
卒業するまで
5年もかかって
しまいましたけど…


でも 今は
大好きです
最後には 頑張れた わたしが すごした場所 だからです
サァァッ


――ふむ
卒業…おめでとう
ポロポロ
――……
長い
長い学校生活が
ありがとう…ございます
今終わった
たっ
卒業おめでとう渚っ!!
おめでとうございますっ
渚ちゃーんおめでとうっ
渚おめでとう――
1年振りに見る涙――


あの日から
一度も泣かなかった
今日は 思う存分
泣いていいんだ 渚
オッサン
早苗さん…
——さぁ
次は校門で
見送るわよっ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ
パチ


おめでとよ
パチ
パチ
パチ
パチ
渚おめでとう
拍手の中
校門をくぐった
もう二度と
くぐらない門
朋也くん
手をつないで
行きましょう


ああ！
制服姿で手をつないで歩く
いつか思い描いてた夢
ちょっと！見せつけてんじゃないわよ～
それを見守る連中もあの頃のままだ
クスクス
せいぜい仲良くやれよっ岡崎っ
ははは
ありがとうございました
この先 どんな道を
俺たちは歩いていくのだろう
――ああ



朋也ったら
見つめ
ちゃって〜〜〜
くすくす
やーらしー♥
てめ…!
この杏!!
あははは
冗談よ
バカねー
もー
お姉ちゃん
キャー
アハハハ…
先の事なんて
そんなの
わからない
でも
ひとつだけ
言える
俺たちは
同じ道を
歩いていく

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック


次のページからの漫画は
連載1回目の前に載った
紹介漫画です。
渚も卒業した事なので
載っけてみました。
あれから2年半…
長かったような短かったような…
というか卒業式といえば
原田さんいつからいたの？
ひど…っ
最初っからちゃんといたよ!?
もーやめなよ〜


――春
始まりの季節
はぁ～
なんで春休みって終わっちゃうんだろうね…
……だな
誰もが新しい生活に期待で胸をふくらませる季節
あ――…つまんね…帰ろうかな
は――…
おいおい…
初日からマークされるぞ
今更サ
せめて明日からにしろよな
だよねぇ…
――無縁だと思っていた
ん？
…いや…そう思い込んでいただけかもしれない
第0回 ～プロローグ～



探せばよかったんだ
新しく始まる日々を
…新入生か…？
何？何か見える？岡崎
いや…別に
ァ…
にしても僕らも3年かぁ…
3年つってもイイ事ないよね…みんな勉強だしさ
あーあ バカやれるのもあと1年かぁ…
春原…



お前…バカって自覚あったんだな…
あんたもでしょっ!?
ほー
つーか酷いよね！僕の事なんだと思ってるんだよっ!!?
ん？
じゃあクリキントン頭
うーん
ミジンコ？
何って——ヘタレ以外の形容詞うかばないわよ？
うむ同意
まだ言うかっ!!
き
杏っ!!?
なんで…っ!?
あわかったアメーバでしょ
どんどん酷くなってるんですけどっ!!
——ところで朋也 椋知らない？
あー
——って何事もなかったかのようにっっ!!?
…うるさいわよ陽平
だっだよねー!!
あははははっ
委員長ならあそこだぞ
しゅー
あホントありがとー…


――って委員長!?
椋ったらまた委員長なの!?
ああ
へ――……
ニヤ～
クラスメイトの人望も厚くてその上かわいいなんて…
私が男ならほうっておかないわよ～
――っそ…
椋～
あっお姉ちゃん
妹バカ…
どっ
あははは
やだも～ あははは
――…
ガタ
ん どこ行くの?
便所
あ僕もいこうかな…
くんな!! そのままねてろ!!


ガラッ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ
へー…
クラスメイトの人望も厚くて——……
さっすが椋よね！かわいいし
…んなモン あるわけねえ
しかたない事だ
いくら現実をつきつけられたって
期待なんて するはずもない そんなのは知らない
キュ
居場所さえ ないのに



──でも
そんな時があるなら
来るのだろうか
──ん？



さつきの――…
――…
…3年だったのか…
てっきり一年かと
――…
春は訪れるだろうか
んっ
あんぱんっ
[CLANNADオフィシャルコミック⑤・完]



クラナド
よんこま
岡崎 そろそろ昼飯にしよう
あ はい！腹ペコっすよ 俺
朋也の弁当
・からあげ
・玉子焼
・ほうれんそうのおひたし
・豚肉のじょうが焼
・そぼろごはん
ぱかっ
芳野さんの弁当
YUKUN
・ナポリタン
・タコさんウィンナー
・ゆで卵
・アスパラのベーコン巻
・ピンクのでんぶごはん（名前入り）
ぱかっ
……芳野さん ゆうくんって呼ばれてるんすか
それ以上この事に触れたら殺すぞ
え!?
昨夜ケンカしたらしい


5巻お買上げありがとうございます！
イヤッホーーゥ!!!
4巻から大して時間も
経ってませんが、あっという間に5巻です！
やっと卒業式までこぎつけて
アフター中盤まで来ましたよ…
アニメからCLANNADを知って
原作知らない方々に読んで頂ける
率がぐーっと上がったと思うので、
漫画は漫画として
楽しんでいただけるよう、頑張ります！
あと、
アニメの
春原の可愛いさが
異常すぎて
軽く死ねます。
みさき樹里
うるせー馬鹿
Special Thanks
まりも・あおらくん、
夏野さん、轟さん
いっちゃん、百田くん、
みなもさん、
高部さん、喜多村さん
Keyスタッフ様
読んで下さった方々
いつも本当に
ありがとう!!

CR COMICS

CLANNAD(クラナド)オフィシャルコミック⑤

●2007年12月15日　初版発行

著者●原作：Key(キー)
漫画：みさき樹里(じゅり)

発行者●石川順恵
発行所●ジャイブ株式会社

〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1
●編集／TEL:03(5367)2744
●営業／TEL:03(5367)2725　FAX:03(5367)2709
●注文センター／TEL:049(274)1653　FAX:049(259)5244
●ジャイブHP:http://www.jive-ltd.co.jp

印刷所●図書印刷株式会社
電植製版●株式会社オノ・エーワン

©2004 Visual Art's/Key
©2007 Misaki Juri
©2007 JIVE Ltd.All rights reserved.
Printed in Japan
ISBN978-4-86176-466-0
初出●月刊COMIC RUSH 2007年7月号～2007年11月号掲載
デザイン●sio
制作協力●有限会社パルプライド（喜多村・和田・田中・勝村・遠藤）

・乱丁・落丁本は、購入された書店名を明記して、小社あてにお送りください。
送料小社負担にてお取替えいたします。
・本書の無断複写（コピー）は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害になります。
・定価はカバーに表示されています。
・この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などとは一切関係ありません。


ズサー
風子参上!
まんぞくしましたっ

ISBN978-4-86176-466-0
C0979 ¥562E

ジャイブ
定価 本体562円 +税



岡崎朋也と古河渚の同棲生活が始まって2ヶ月が過ぎた。仕事にも慣れてたくましくなってきた朋也に、渚は、朋也の父と会うことを提案する。嫌がる朋也だったが、渚と一緒に乗り越えていこうと決意し、埋められない溝を感じつつも、無事に父と再会する。そんな中、朋也に仕事上の転機が……!?